

邑楽郡青少推だより 第13号

令和2年10月15日発行



対戦型ゲームの腕前を競う「e スポーツ」をご存じですか？世界の競技人口は1億人以上とされ、高い瞬発力や判断力が求められるスポーツとして、海外では地位が確立しています。

「アジア競技大会」では、18年大会（インドネシア開催）で初めて公開競技となり、22年大会（中国開催）では正式競技となります。五輪種目への採用を期待する声もあります。

日本では、「第1回U19eスポーツ大会」（全国初19歳以下のeスポーツ大会）が、次世代を担う若者の戦略的思考やチームワーク・コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国内外で有数の若者憧れの大会を開催することを目的として行われます。

第1回U19eスポーツ大会

○タイトル 「リーグ・オブ・レジェンド

○オンライン予選 11/7（土）～8（日）

○オフライン決勝 11/22（日）@Gメッセ群馬

○優勝賞品 「LoL Park（韓国）」への招待

競技人口が増える中、全国各地の高校で「e スポーツ部」の創設が相次いでいますが、生活に支障をきたす依存症（*）への懸念が高まっています。

*厚労省によると、ゲームを含むネット依存の疑いがある中高生は17年度に全国で推計93万人。5年前から約40万人増加している。世界保健機関（WHO）は、19年ギャンブルなどと並ぶ依存症として「ゲーム障害」を認定した。

18年秋に創部した私立岡山県共生高校（岡山県新見市）eスポーツ部の部員数は、男女20人。1年生16人の多くが、同部での活動を希望して入学しました。同校は、依存症への対策を重視しています。平日の練習時間は3時間、土日祝日は5時間までに限定し、顧問が定期的に巡回、監視します。また、専属のチームドクターを置き、月1回ほど部員と面談し、心身に異変がないかを直接確認しています。

しかし、ゲームと健全な生活習慣の両立は容易ではありません。eスポーツの歴史は浅く、「どんなゲームが依存症になりやすいのか」「1日何時間までの練習なら健康に悪影響がないのか」など、研究成果も乏しいのが現状です。

コロナ禍でオンライン授業が広がるなど、青少年がインターネットに触れる機会はますます増えています。また、男子中学生の将来就きたい職業に「ITエンジニア」「ゲームクリエイター」「ユーチューバー」が上位にランクインされるなど、インターネットと切り離すことは不可能です。

ネットとの向き合い方を社会全体で考え、子どもたちの心身の健康を守ることが大切だと思います。

発行/邑楽郡青少年育成推進員連絡協議

編集・印刷/東部教育事務所生涯学習係

〒373-0033 太田市西本町60-27

TEL:0276-31-7151/FAX:0276-31-7101